

## 再評価個表

事業名	水利施設等保全高度化事業 (水利施設整備事業)	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	<small>なだ</small> 灘地区	事業箇所	にしうわぐんいかたちょうなかのほま 西宇和郡伊方町中之浜
事業主旨	<p>本地区では、昭和 58 年度から平成 8 年度に県営かんがい排水事業により整備したスプリンクラー自動化施設の導入により、灌水・防除作業の省力化・効率化が図られてきたが、高品質果実の安定生産を支えてきたスプリンクラー自動化施設は、老朽化により機器の故障等が年々増加しており、このまま劣化が進行すると、機器の故障等が更に増加し、高品質果実の安定生産に支障をきたし、今後の産地の維持が危ぶまれる状況にあることから、平成 22 年度～26 年度に基幹施設の保全対策工事を実施している。</p> <p>このため、早急に残る畑地かんがい末端施設の更新整備を実施し、施設の機能維持及び安全性の確保と担い手の負担軽減を図る。</p>		
再評価の実施理由	「事業採択後 10 年が経過して継続中」の補助事業		

### 1. 地域の概要

本地域は、宇和海に面した伊方町及び八幡浜市に位置し、平地に乏しく、そのほとんどがリアス海岸特有の急傾斜な地形で、水はけのよい地形条件と年平均気温 16～17℃と四季を通じて温暖な気候を生かし、温州みかんを主とした柑橘栽培が盛んである。

また、本地区は、国営事業で整備された南予用水の受益地で、県営かんがい排水事業によるスプリンクラー自動化施設の導入により、かん水・防除作業の省力化・効率化が図られ、高品質果実を安定的に生産する県下有数の産地として、農業後継者(担い手)も多く、新品種の導入や更なる高品質化にも積極的に取り組んでいる。

### 2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成 27 年度	完成予定	令和 7 年度 (見込み)
用地着手		工事着手	平成 28 年度
全体事業費	581 百万円		
(1) 事業概要	畑地かんがい末端施設更新 (N=7 ブロック) スプリンクラー立ち上り工 7,075 本 電磁弁工 633 基 減圧弁工 46 基 弁類工 376 基		
(2) 事業経緯	平成 27 年度 事業採択、畑かん末端施設設計検討業務着手 平成 28 年度 4,7,8 ブロック 末端施設工事着手 平成 29 年度 6 ブロック 末端施設工事着手 平成 30 年度 3,5,9 ブロック 末端施設工事着手 7 ブロック 末端施設工事完了 令和 2 年度 4 ブロック 末端施設工事完了 令和 3 年度 8 ブロック 末端施設工事完了 令和 6 年度以降 末端施設工事継続		

### 3. 事業の必要性及び整備効果等

<b>(1)事業の必要性</b>	<p>昭和 58 年度から平成 8 年度に県営かんがい排水事業で整備したスプリンクラー自動化施設は、産地の高品質果実の安定生産を支えてきたが、整備後 20 年～40 年余りが経過し、老朽化による漏水等機器の故障が年々増加しており、補修費などの担い手の負担が増大している。このまま劣化が進行すると、機器の故障等が更に増加し、高品質果実の安定生産に支障をきたし、今後の産地の維持が危ぶまれる状況にあることから、平成 22 年度～26 年度に基幹施設の保全対策工事を実施している。</p> <p>このため、早急に残る畑地かんがい末端施設の更新整備を実施し、施設の機能維持及び安全性の確保と担い手の負担軽減を図る必要がある。</p>
<b>(2)事業の整備効果</b>	<p>畑地かんがい末端施設の更新整備により、スプリンクラー自動化施設の機能が適切に維持されることで、補修費等に係る担い手の負担が軽減されるとともに、将来にわたり、高品質果実の安定的な生産が確保される。</p>
<b>(3)事業を巡る社会経済情勢等の変化</b>	<p>本事業による畑地かんがい末端施設の更新整備が進む中、施設の機能維持及び安全性の確保と担い手の負担が軽減されてきており、今後も高品質果実の安定的な生産を確保するために、本事業の完了が強く望まれている。</p> <p>また、西宇和地区では、「西宇和みかん支援隊」を母体に担い手・農作業支援システムを構築し、廃校となった小学校を宿泊施設として再活用したり研修生等の受入体制を整備し、地域活性化に取り組んでおり、人的な体制整備が進む中、本事業による施設の早期更新に期待が寄せられている。</p>

### 4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

<b>R5 末投資事業費</b>	395 百万円 [進捗率：68.0%](事業費換算)
<b>(1)事業の進捗状況</b>	<p>本事業は平成 27 年度に事業着手し、令和 5 年度までに園内支線水路（弁類交換）の更新整備を完了しており、残る末端散水線施設（スプリンクラー立上り工）を整備中である。</p>
<b>(2)これまでの整備効果</b>	<p>令和 5 年度までに 68%（事業費ベース）の更新整備が完了し、施設の機能維持及び安全性の確保と担い手の負担軽減が図られ、高品質果実の安定生産に寄与している。</p>
<b>(3)今後の事業進捗の見込み</b>	<p>令和 6 年度以降更新整備を予定している施設については、関係機関との協議や施工期間の地元調整も完了しているため、令和 7 年度には事業完了する見込みである。</p>

## 5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

### （1）費用便益比

土地改良事業の費用対効果分析マニュアル（農林水産省農村振興局）に基づき算出。

C：総費用＝6,200百万円

- ・建設費 705百万円
- ・その他 5,495百万円

※その他は共用開始後40年間に必要な再整備費－40年後の資産価額

B：総便益＝10,454百万円

- ・作物生産効果 1,815百万円
- ・品質向上効果 2,023百万円
- ・営農経費節減効果 6,483百万円
- ・維持管理費節減効果 △126百万円
- ・国産農作物安定供給効果 259百万円

$B/C = 10,454 / 6,200 = 1.68$

## 6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

更新により撤去した既設の弁類等の機器類をスクラップ業者に売却することでコスト縮減を図る。

## 7. その他

- ・愛媛県長期計画～未来につなぐ えひめチャレンジプラン～において、「施策17：農林水産業の生産振興」に本事業を位置付けている。
- ・えひめ農林水産業振興プラン2021において、施策「(2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます」に本事業を位置付けている。

## 8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。

当該施設は、高品質果実の安定生産に不可欠な施設であり、将来にわたり産地が維持・発展できるよう、早急に更新整備を進める必要があり、令和7年度には事業完了する見込みである。